

2021年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年8月13日

上場会社名 株式会社ツナググループ・ホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 6551 URL https://tghd.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)米田 光宏
 問合せ先責任者 (役職名)経営統括室室長 (氏名)小林 美重子 (TEL)03-3569-2790
 四半期報告書提出予定日 2021年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年9月期第3四半期の連結業績(2020年10月1日~2021年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		調整後EBITDA※		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%			百万円	%	百万円	%
2021年9月期第3四半期	8,393	△11.4	△162	—	134	—	△152	—	△292	—
2020年9月期第3四半期	9,472	34.1	△416	—	△92	—	△421	—	△426	—

(注) 包括利益 2021年9月期第3四半期 △294百万円(—%) 2020年9月期第3四半期 △434百万円(—%)

※調整後EBITDA(営業利益+減価償却費及びのれん償却費)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年9月期第3四半期	△37.20	—
2020年9月期第3四半期	△58.76	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年9月期第3四半期	4,750	765	16.0
2020年9月期	5,302	721	13.5

(参考) 自己資本 2021年9月期第3四半期 759百万円 2020年9月期 713百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年9月期	—	0.00	—	—	—
2021年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年9月期の連結業績予想(2020年10月1日~2021年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		調整後EBITDA	
	百万円	%	百万円	%
通期	12,500	3.3	440	—

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名)一、除外 4社(社名) 株式会社スタッフサポーター
株式会社ツナググループ・マーケティング
Regulus Technologies株式会社
株式会社ツナグ・スタッフィング

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年9月期3Q	8,561,584株	2020年9月期	7,391,520株
2021年9月期3Q	83,643株	2020年9月期	83,643株
2021年9月期3Q	7,851,809株	2020年9月期3Q	7,255,653株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は新型コロナウイルス感染症の影響で一進一退の状況です。製造業が堅調な一方、個人向けサービスの低迷が続くなど、業種による二極化が鮮明になっています。設備投資も総じて持ち直しが続いていますが、新型コロナウイルス感染症の悪影響が大きい業種では慎重な投資姿勢が続いており、業種によりばらつきがみられます。個人消費は、活動制約の継続が重石になっており、新型コロナウイルスワクチンの接種が進むにつれて消費も持ち直しに転じる見通しではありますが、当第3四半期連結累計期間においては消費活動の回復は限定的なものであります。

国内の雇用情勢につきましても、依然として厳しい状況が続いており、2021年6月の有効求人倍率は1.13倍と前年同期と同水準となっています。また、完全失業率は2.9%（季節調整値）、完全失業者数は206万人と前年同月に比べて11万人の増加であり、17ヶ月連続の増加となっています。

このような環境の中、当社グループの第3四半期連結累計期間の売上高は前年同期比では減収となっておりますが、売上回復は進んでおります。

費用面においては、第1四半期から推し進めた事業会社の再編や大幅なオフィス縮小統合などの構造改革により、前年同期比では販売費及び一般管理費を779百万円削減いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高8,393百万円（前期比11.4%減）、営業損失162百万円（前年同期は416百万円の損失）、経常損失152百万円（前年同期は421百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失292百万円（前年同期は426百万円の損失）、営業利益よりのれん及び減価償却費影響を除いた調整後EBITDAでは、134百万円（前年同期は△92百万円）となりました。

また、当第3四半期連結会計期間においては、売上高2,507百万円（前期比0.0%増）、営業利益33百万円（前年同期は245百万円の損失）、経常利益34百万円（前年同期は246百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失135百万円（前年同期は231百万円の損失）となりました。

当社グループにおける各セグメント別の業績は以下のとおりです。

(HRマネジメント事業)

HRマネジメント事業におきましては、主力のRPOサービス領域に加え、外国人雇用のコンサルティングやマッチングサービスを提供する外国人採用領域、スタッフの離職防止サービスを提供する定着化支援領域、原稿制作や新卒採用支援、営業代行等を受託する業務代行領域などがあります。

RPOサービス領域では、新型コロナウイルス感染症拡大により深刻な影響を受けた飲食・小売り・サービス業の採用抑制が続いており、売上高が前年同期比でおよそ3割減少いたしました。

外国人採用領域では、外国人の渡航制限の影響が続いており、売上高も回復せず、前年同期比でおよそ3割減少いたしました。

業務代行領域では、営業代行での大型受注もあり、売上高が前年同期比でおよそ6倍となりました。

これらの結果、HRマネジメント事業における売上高は2,431百万円（前期比8.2%減）、営業損失は21百万円（前年同期は37百万円の損失）となりました。

(メディア&テクノロジー事業)

メディア&テクノロジー事業におきましては、「シニア・主婦」「短期単発、近隣地域希望」といった求職者のニーズに対してWeb・ペーパーメディア・リアルイベントなど様々な求人メディアサービスを提供するセグメントメディア領域と、ITテクノロジーを駆使した人材マッチングサービスを提供するHRテクノロジー領域、当社グループ各社のあらゆるサービスを最大限に活用し、総合的に提案するトータルソリューション領域があります。

セグメントメディア領域では、都心部中心に求人案件数や応募数の減少により、売上高が前年同期比でおよそ3割減少しておりますが、新型コロナ影響を大きく受けた前年第3四半期との比較ではプラスに転じています。中でも短期単発バイト専門サービス『ショットワークス』は堅調な求人ニーズもあり当領域での回復を牽引しております。

HRテクノロジー領域では、ビッグデータとアドテクノロジー（広告配信技術）を駆使したダイレクトリクルーティングサービス『Findin(ファインドイン)』を中心に回復が早く、前年同期比でほぼ同額となっております。

トータルソリューション領域では、大手小売顧客の採用抑制が続いており、売上高はおよそ2割減少いたしました。

これらの結果、メディア&テクノロジー事業における売上高は4,456百万円（前期比10.0%減）、営業損失は123百万円（前年同期は216百万円の損失）となりました。

（スタッフィング事業）

スタッフィング事業におきましては、東北エリア・関東エリアを中心とした人材派遣及び日々紹介をおこなう派遣・紹介領域、派遣スタッフの研修店舗を兼ねたコンビニ店舗を運営するコンビニ領域があります。

派遣・紹介領域につきましては、当領域を運営しておりました株式会社ツナグ・スタッフィングの全株式の譲渡により当第3四半期から連結対象外としております。

コンビニ領域は、ニューノーマル下での中食需要に対応した売場展開による日販の回復により、売上高が前年同期比でおよそ2割増加いたしました。

これらの結果、スタッフィング事業における売上高は2,247百万円（前期比6.9%減）、営業損失は47百万円（前年同期は115百万円の損失）となりました。

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末と比べ551百万円減少し、4,750百万円となりました。これは主に売掛金が124百万円減少したことや、のれんが309百万円減少したことによるものです。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末と比べ595百万円減少し、3,984百万円となりました。これは主に未払消費税等が172百万円減少したことや、長期借入金金が311百万円減少したことによるものです。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末と比べ44百万円増加し、765百万円となりました。これは主に資本金及びその他資本剰余金がそれぞれ168百万円増加したことや、利益剰余金が290百万円減少したことによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年9月期の業績予想につきましては、概ね計画通りに推移しており、2020年11月13日に公表いたしました通期の業績見通しに変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	805,534	733,222
売掛金	974,258	850,038
商品	52,090	53,246
仕掛品	8,440	7,531
その他	499,438	582,069
貸倒引当金	△3,111	△2,938
流動資産合計	2,336,652	2,223,169
固定資産		
有形固定資産	248,235	220,850
無形固定資産		
のれん	817,314	508,290
顧客関連資産	1,031,158	951,838
その他	398,549	411,386
無形固定資産合計	2,247,021	1,871,515
投資その他の資産		
その他	471,421	436,444
貸倒引当金	△1,032	△1,000
投資その他の資産合計	470,388	435,444
固定資産合計	2,965,645	2,527,810
資産合計	5,302,297	4,750,980

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	312,268	283,425
短期借入金	668,158	707,597
未払法人税等	12,614	29,926
賞与引当金	66,657	—
その他	1,429,363	1,200,591
流動負債合計	2,489,062	2,221,541
固定負債		
長期借入金	1,627,512	1,315,537
役員退職慰労引当金	3,820	—
その他	459,953	447,902
固定負債合計	2,091,286	1,763,440
負債合計	4,580,348	3,984,981
純資産の部		
株主資本		
資本金	520,120	688,652
資本剰余金	340,120	508,652
利益剰余金	△96,785	△387,107
自己株式	△50,002	△50,002
株主資本合計	713,452	760,194
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△197	△255
その他の包括利益累計額合計	△197	△255
新株予約権	—	152
非支配株主持分	8,693	5,906
純資産合計	721,948	765,998
負債純資産合計	5,302,297	4,750,980

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)
売上高	9,472,780	8,393,046
売上原価	4,911,347	4,357,111
売上総利益	4,561,433	4,035,935
販売費及び一般管理費	4,977,636	4,197,946
営業損失(△)	△416,203	△162,010
営業外収益		
受取利息	155	2,855
助成金収入	6,199	21,552
受取手数料	2,411	4,094
その他	2,594	5,148
営業外収益合計	11,360	33,651
営業外費用		
支払利息	10,279	12,672
支払手数料	5,778	6,505
その他	557	5,298
営業外費用合計	16,614	24,477
経常損失(△)	△421,457	△152,837
特別利益		
関係会社株式売却益	1	—
リース債務解約益	—	4,950
特別利益合計	1	4,950
特別損失		
固定資産売却損	—	1,833
関係会社株式売却損	—	173,791
その他	11,477	7,732
特別損失合計	11,477	183,357
税金等調整前四半期純損失(△)	△432,933	△331,243
法人税、住民税及び事業税	17,686	32,017
法人税等調整額	△15,937	△68,388
法人税等合計	1,748	△36,370
四半期純損失(△)	△434,682	△294,873
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△8,361	△2,786
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△426,320	△292,086

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)
四半期純損失(△)	△434,682	△294,873
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△133	△57
その他の包括利益合計	△133	△57
四半期包括利益	△434,815	△294,931
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△426,453	△292,144
非支配株主に係る四半期包括利益	△8,361	△2,786

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間において、新株予約権の権利行使により、資本金が168,532千円、資本剰余金が168,532千円増加しました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において、資本金が688,652千円、資本剰余金が508,652千円となっております。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	HRマネジメン ト事業	メディア& テクノロジー 事業	スタッフィ ング事業			
売上高						
外部顧客への売上高	2,369,412	4,741,213	2,355,519	9,466,145	6,635	9,472,780
セグメント間の内部 売上高又は振替高	280,638	210,781	57,484	548,904	△548,904	—
計	2,650,051	4,951,994	2,413,003	10,015,050	△542,269	9,472,780
セグメント損失(△)	△37,895	△216,460	△115,330	△369,687	△46,516	△416,203

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額△46,516千円は、セグメント間取引消去4,552千円、各報告セグメントに配分していない全社収益・全社費用の総額△51,068千円であります。

2. セグメント損失(△)は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年10月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	HRマネジメン ト事業	メディア& テクノロジー 事業	スタッフィ ング事業			
売上高						
外部顧客への売上高	1,922,201	4,236,137	2,207,372	8,365,710	27,335	8,393,046
セグメント間の内部 売上高又は振替高	509,681	220,065	39,661	769,409	△769,409	—
計	2,431,882	4,456,203	2,247,034	9,135,120	△742,073	8,393,046
セグメント損失(△)	△21,161	△123,037	△47,866	△192,064	30,053	△162,010

(注) 1. セグメント損失(△)の調整額30,053千円は、セグメント間取引消去53,319千円、各報告セグメントに配分していない全社収益・全社費用の総額△23,266千円であります。

2. セグメント損失(△)は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれんに関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間に株式会社ツナグ・スタッフィングの株式を売却したことに伴い、「スタッフィング事業」セグメントにおいて、のれんの金額が219,426千円減少しております。